



# TCA ニュース

= 2000年 2月発行 = 【No. 138】

発行 東京サイクリング協会 広報委員会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-15-11 ・FAX 03-3541-6540

サイクリストの五楽 輪楽・自転車を楽しみ 行楽・旅を楽しむ 道楽・道を楽しむ 友楽・友と楽しみ 遊楽・遊びを楽しむ

## EVENT

## TCA サイクルオリエンテーリング 講習会&実習OL (フリーラン)

### { 参加者募集要項 }

- 目的： 地図読みと自転車走行技術を合わせて、楽しみながら習得する。
- 日時： 2000年3月25日(土) 11:00 ~ 16:00 (雨天決行)
- 会場： 緑山スタジオ (横浜市青葉区)
- 形式： フリーポイント方式  
(地図に示された全てのポストを、任意の順序で回って時間を競う。)
- 使用車： 公道を安全に走行できる自転車。
- 使用地図： 国土地理院 2万5千分の1
- クラス： L(ロング) 25km ・ S(ショート) 15km
- 参加費： 会員 1,500円 一般 2,000円 (払込まれた参加費は返却いたしません)
- 申込方法： 参加費 (持参、現金書留又は郵便振替をご利用下さい。)  
(郵便振替口座：00100-9-190048 東京サイクリング協会)  
必要事項を記入した申込用紙。  
プログラム返送用の封筒。  
(23cm x 12cm 90円切手を貼り、返信用宛名を記入)  
、 を下記に郵送  
〒104-0061 東京都中央区銀座7-15-11  
東京サイクリング協会 OL係
- 締切り： 3月8日(水) 消印まで
- 問合せ先： 東京サイクリング協会事務局 03-3541-6540 (中村)

### 申込用紙

フリガ 氏名		男 女	住 所	〒 _____ _____ _____
生年 月日	T S H 年 月 日	年 令	才	: _____ ( )
参加費	会員 ・ 一般 ・ 研修	参加クラス	L ・ S	駐車場希望 有 ・ 無

申し訳ありませんが、申込用紙はコピーしてお使い下さい。

平成12年度JCA会員証の更新が始まります。東京協会は、5,000円となります。

# 第5回全国ラリー東京大会の思い出

相談役：北川 四郎

今年は、第44回全国サイクリング大会（全国ラリー）がJCAの主催ではあるが、39年ぶりに東京で開催されることになった。

想えば全国ラリーは、故和田文平氏の努力で始めて静岡県浜名湖で行なわれた。当時、東京協会理事の末席だった私も参加した。輸送制度がなかったので自転車を送るのに荷造りをして丸通（日通）に頼まなければならなかった。開催地までの乗車券の他に約五割が送料だ。今から考えると、まるで夢のようだったが事実である。

第1回大会は、200名の参加で無事に終え、続いて第2回が大阪、第3回が岡山、第4回が神奈川、参加者も無事に増えて来た大会も、第5回の名乗りをあげる県がない。以前から理事会で「東京で実施したい」と言って来た私だったが、「東京は他県がやれない時に行く」と言う意見で否決されていた。

大会実施の年が来たが未だに実施しようと言い出す県はない。二月のクラブ代表者会議で思い切って、私が発言した。「このままでは全国ラリーが途絶えてしまう。東京ならばやれる」と言いきった。佐近氏は「また北川氏のラリー実施説が始まった」と反応。だが、代表者の中から賛同者が出て、会議では東京大会開催が決定した。

私が尊敬している朝日新聞の山口先生は、「金があってやるなら誰でも出来る。金がなくてやるのが男じゃないか」と何時も言われた。当時は、JCAも法人ではなく補助金は一円も出ない。実行委員一同各方面に無料で頂ける品物は何でもとお願いして廻った。そのうちに故千代間氏のご努力で自転車工業会から二十万円のお金が頂けることになり、役員一同万歳をしたことを覚えている。

同大会で各方面から集めた品物は、三共製薬から試供品の各種薬品詰め合わせ、明電舎がタオル、松坂屋と赤札堂が休憩地の上野公園でジュース牛乳類の接待、アルプス・山王・サイクル各社共同で自転車に貼る特製シール等々他にも色々な品があった。フジクラ（藤倉電線）からは、夜の集いの広場照明用ビニール線・器具類。これは、私の担当で「電線は切っても良いがその目方だけ返却してくれ」との条件付きだった。この工事は、NCTCの畑君が電気工事士の資格を持って居るので同君にお願いした。

大会当日の受付は、上野・東京・品川の各駅に置いた。私は、東京駅の受け持ちだった。参加者が次々にあらわれる。中には小さなサドルバックだけの者も居る。係が「バックはこれひとつですか、お土産が入りきれませんよ。」「そんなに頂けるのですか？」などと大騒ぎだ。

開会式を品川のプリンスホテル前で行い、皇居前を経て上野公園さらに代々木まで都心を走行するから、当時としても大変だった。代々木で一泊。翌日は、三鷹のキリスト教大学まで走り同大学構内で閉会式。解散後は、多くの自転車はトラックで各駅に送り届けた。

東京大会は、各クラブの協力でホームランには及ばないが、確実にヒットは打って次の宮城県につなぐことが出来たと信じて居る。私のサイクリング歴での大きな思い出のひとつです。

# 第14回全国ラリー-JCA大会について

理事：北川 常夫

今年の全国ラリーは、JCA本部が主催するわけであるが、以前にも一度だけJCA本部が主催した大会が存在した。

ちょうど30年前の昭和45年(1970)8月5日(火)～7日(木)に伊豆の修善寺で開催された第14回の大会である。

この年にオープンしたサイクルスポーツセンターを主会場として、5kmコースの試走、マップリーディング、サイクルゲーム、1000mタイムトライアル、ヒルクライム等各種の種目を、近隣のサイクリストから役員が集められて行なわれた。

当時、学生で前年に2級リーダーになっていた私もE S C A (東日本学生サイクリング連盟)を通してお手伝いとして参加した。競技の担当で、バンクを走った経験があるからということで、藤田サドルの落合さんの指示で333mのバンクをサイクリング車で試走して、なるべくゆっくり上のほうを回ってみることをやらされて冷や汗をかいた。

ニューサイクリング誌上で「オーダーメイド読本」を連載していた有吉さんが、黙々とバンクを回っているのを見て、ペダリングについて考えさせられたことが妙に印象に残っている。

前年の石川県の能登半島での大会に始めてクラブのメンバーと参加して、その翌年に、諸先輩と一緒に全国大会の役員の一員として夜の打合せを聞いていると自分が立派になったような気分がして、きちんとした仕事をしなければという気持ちになった。

翌日は、3kmコースを使ったヒルクライムのスタート係を担当した。せっかくだから参加者の走行が終了してからゴールへ連絡をとって自分も走り出してヒイヒイ登ってタイムを測ってもらった。

各県対抗の自転車運動会のようなものも企画・開催された。参加者の数は、550名とされている。

大会が終了してから一人で丹那盆地へ向って「宴の後」という言葉を思い浮かべながら十国峠を熱海へと下り、鉄道で帰った。この年の春から当時の国鉄がJCA統一会員証の所持者に輪行袋の車内持込みを正式に認めた年でもあった。

今年は、TCAが昭和30年11月に設立してから満45年目の年でもあるので、この機会を記念行事の一つと位置付けて大会を成功させたいとも考えている。また、来年以降のレインボーサイクリング大会へとつなぐ布石としても、まず2000人規模をこの場所に集めることに意味があるのではないだろうか。

いずれにせよ、全国のサイクリストに東京に集ってもらい、楽しい思いを持って帰ってもらえるようにしたい。

## 指導部からのお知らせ

### JCAインストラクター研修会開催

日 時	2000年3月25日(土) 10:00 ~ 16:30
場 所	緑山スタジオ(横浜市青葉区)
受講費用	3,000円 (OL参加費を含む)
研修内容	TCAサイクルOL講習会に参加。テキスト配布、レポート提出
申し込み	1頁のOL申込用紙の“研修”に○印を付けて送付(申込方法は同じ)
参加資格	JCA3級インストラクター資格所有者

# 新春初詣顔合わせサイクリング

第43回 東京いいとこ自転車散歩

「都心の富士塚巡り」

平成12年1月2日

加藤元孝  
日向宏之  
長崎弘  
會津道夫  
山本雅道  
野澤千明  
拓実



佐藤頼泰  
のぞわ十朗  
中村洋郎  
増田治男  
北川常夫  
武田俊夫

七戸美幸子  
箭内玲子  
野澤攝夫  
千葉茂樹  
虎児島恒樹  
田中美千代  
三村武司  
小山富蔵  
小並原淑夫  
小川和也  
近及貞文  
石井一也  
高木康雄  
齊藤秀久  
止藤武男  
飯田喜久三  
河平久  
藤田伸一  
南幸二  
若川博賢

野澤千明

小学一年生の野澤千明ちゃんの手紙です。

